

日本物理学会領域2 役員会議 議事録案

日時：2024年9月16日(月) 16:40-18:10

場所：

参加者：長崎(司会), 比村, 三瓶(書記), 菊池, 安部, 佐々木, 四竈, 藪内, 徳澤, 松山, 斎藤

報告・議論事項

- 1) 2024年10月からの役員体制・役割分担
- 2) 2025年4月からの領域代表、領域副代表の候補について
- 3) 2024春期大会 学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 2025年米沢富美子記念賞 授賞候補者の募集について
- 5) 2025年春季大会シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 代議員候補者推薦
- 7) 領域委員会報告
- 8) 領域2での確認事項
- 9) 講演件数の推移
- 10) 講演概要集提出率
- 11) その他

報告・議事内容

- 1) 2024年10月からの役員体制・役割分担

役員体制・役割分担を確認した。

領域代表 長崎 百伸 (京都大学)

領域副代表 比村 治彦 (京都工芸繊維大学)

領域前代表 藤堂 泰 (核融合研)

役員 (佐々木, 三瓶, 菊池)

運営委員 (徳澤, 松山, 安部, 岩田, 大石, 川面)

- 2) 2025年4月からの領域代表、領域副代表の候補について

2024年9月で任期終了の役員

役員 (領域運営委員) 藪内 俊毅 (高輝度光科学)

役員 (領域運営委員) 四竈 泰一 (京都大学)

役員 (領域運営委員) 斎藤 晴彦 (東京大学)

2025年10月からの領域役員の推薦

佐々木, 三瓶, 菊池が推薦を行う.

上記とは別に運営会議にて立候補をアナウンスする.

2025年4月からの領域代表、副代表の候補

領域代表 比村 治彦さん (京都工芸繊維大学)

領域副代表 江尻晶さん (東京大学)

10/21 (月) までに推薦フォーム入力, 11月の領域委員会で承認予定.

3) 2024 春期大会学生優秀発表賞に関する報告

応募者 33 名の中から, 以下 5 名を選出.

- 那須 達丈 (総研大)

「LHD における電子スケール乱流の特性研究」

- 高野 歩海 (名大理)

「沿磁力線座標を導入したバルーニングモード乱流の簡約化 MHD シミュレーション」

- 蔡 福瑞 (京大エネ科)

「EMC3-EIRENE シミュレーション及び分光診断で明らかになったヘリオトロン J 境界層の多層磁場構造における不純物挙動」

- 戸田 悠斗 (総研大)

「時間依存密度汎関数理論を用いたタンゲステンに対する入射水素イオンの中性化過程解析」

- 榊 剛志 (名大理)

「双極子磁場中でのオーロラ構造の非局所的成長と非線形飽和過程」

4) 2025 年米沢富美子記念賞 授賞候補者の募集について

領域 2 の締切: 2024 年 10 月 25 日 (金)

提出先: 領域副代表 比村

5) 春期大会 (2025 年) シンポジウム等の提案

企画講演 (0 件提案), 企画セッション (0 件提案), シンポジウム (1 件提案+領域 11 との合同 1 件提案), 招待講演 (1 件提案), 運営会議で周知する. 締め切り 10/24 (役員会へ)

若手奨励賞受賞記念講演 (審査中), 運営会議では出さない.

提案者は, 10/24 (木) までに役員会へ案を提出する.

学会の公募受付は 10 月下旬~11 月上旬.

シンポジウム（1件提案）

- 提案者 坂本隆一（核融合科学研究所）
「「プラズマサイエンス」—その学際的发展と豊かな未来社会のために」
菊池氏から内容が説明された。基本的に開催することが承認された。

シンポジウム（領域11との合同1件提案）

この合同提案は、領域11での審議が終わってから、領域2で審議するという
ことで、このタイミングでの詳しい議論はなかった。

招待講演（1件提案）

- 剣持尚輝（核融合科学研究所） 「磁場閉じ込めプラズマにおける非局所輸送の物理機構に関する研究」
異論はなく、運営会議で報告することとなった。

6) 代議員候補者推薦

領域2から4名の代議員候補が提案された。

千徳先生（2回目）、藤堂先生（2回目）、比村先生（1回目）、江尻先生（1回目）

7) 領域委員会報告

1. 領域委員会（2024年5月24日）

計算物理領域の試行について

各領域からの議論の報告がなされ、設立に向けたワーキンググループの設置については反対がないことが確認された。

概要について説明があり、全領域を横断すること、当面は年次大会のみで開催することなどが挙げられた。

・計算物理領域に学生優秀発表賞を出すことを検討するという案に対して、（元の領域との）ダブル受賞もありうるのかという質問がなされた。

2. 物理学会からのサポートレターの発出について

サポートレターの発出方針案、及び文案が提示された。

もう少し慎重に検討を続けるとのこと。

3. 概要原稿の英語化について

「日英1ページずつ」や「英語ページのみ1ページ」などの案が出ている。

インフォーマルミーティングで議題に上げ、まとめたものを11月予定の領域委員会

で報告する.

(以下は意見)

- ・申し込み時の 200 文字はこの対象ではなく, 日本語であろう.
- ・指導教員の負担が大きい.
- ・学生が尻込みするのではないか.
- ・発表資料が日本語では意味がないのではないか.
- ・DOI がつくことのメリットは大きい.
- ・英語をつけるのをオプションにしてはどうか.
- ・他の学会では, アブスト (タイトルの後の数行) だけ英語にする例もある.

8) 領域 2 での確認事項

以下の事項について確認した.

- Plasma メーリングリストの運用
 - ・サーバにストックしてあるものを削除できる.
 - ・登録している会員しか投稿できない.
- 学生優秀発表賞
- シンポジウム, 招待講演
- シンポジウム等での online 登壇

その他の確認事項:

役員会の活動を核融合研の共同研究として申請しているが, コロナ以降は旅費を使っていないので, 申請しなくて良いのではないか.

9) 講演件数の推移

110 件. ここ最近は微増傾向がある.

10) 講演概要集提出率

概要提出率は 108/110 (98.1%)

他領域と比較しても提出率が良い.

11) その他

- NIFS 共同研究の改革について
- 懇親会

日時：9月17日（火）18:30～

会場：彩屋 札幌駅前店

以上